

## プロポーザル説明書

### 1 プロポーザルの目的

札幌市交通局が発注する工事に係る設計業務等を委託する者（以下「設計者」という。）の選定に当たり、技術提案者の創造性、技術力、経験などを適正に審査の上、その業務の内容に最も適した設計者を選定することを目的とします。

### 2 業務概要

- (1) 業務名 南北線シェルター耐震改修工事实施設計
- (2) 業務概要 別紙「業務概要」による。

### 3 参加資格

- (1) 参加者に求められる資格要件

次に掲げる資格及び条件の全てを満たしている者であること。

- ア 地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4の規定に該当しない者であること。
- イ 平成31・32年度札幌市競争入札参加資格者名簿に大分類「建設関連サービス業」中分類「建築設計・監理業」等級「A」の名簿区分で登録されていること。
- ウ 札幌市交通局競争入札参加停止等措置要領（平成14年5月31日交通事業管理者決裁）に基づく参加停止の措置を受けている期間中でないこと。
- エ 会社更生法（昭和27年法律第172号）による更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成11年法律第225号）による再生手続開始の申立てがなされている者等経営状態が著しく不健全な者でないこと。
- オ 建築士法（昭和25年法律第202号）第23条の規定に基づく一級建築士事務所の登録を行っていること。
- カ 延べ面積2,000㎡以上の建築物に係る耐震改修工事实施設計業務（平成16年4月1日以降に業務が完了し、引渡し済みのものに限る。）において、元請として履行実績を有すること。
- キ 3(2)に掲げる業務従事者を配置できること。

- (2) 業務従事者の資格等

- ア 総括責任者（業務全体を総括する役割を担う方）及び主任技術者（その分担業務を総括する役割を担う方）は建築士法に規定する一級建築士の資格を有していること。
- イ 総括責任者及び主任技術者は、参加する組織と3ヶ月以上の恒常的な雇用関係があること。
- ウ 総括責任者と主任技術者は、兼任しないこと。

- (3) 重複してプロポーザルに参加する場合

同日付で公示した「南車両基地耐震改修工事实施設計業務」及び「東車両基地耐震改修及び設備改良工事に係る基本設計・実施設計業務」と重複して参加することができます。

なお、上記業務の設計者に選定された者も審査の対象となります。

#### 4 手続等

##### (1) 担当部局・提出先

札幌市交通局高速電車部施設課

〒004-8555 札幌市厚別区大谷地東2丁目4-1

電話：(011) 896-2747 FAX：(011) 896-2793

e-mail：[st.kenchiku@city.sapporo.jp](mailto:st.kenchiku@city.sapporo.jp) ※データ容量は4MBまで

(e-mail については、質問書及び評価内容等に関する質問書の提出のみ受付。)

##### (2) 事務等取り扱い日時

土曜日、日曜日及び祝祭日を除く午前8時45分から午後5時15分までとします。

##### (3) 全体日程

ア 質問書の提出期限	<u>令和2年2月 5日(水) 正午まで</u>
イ 質問書に対する回答	<u>令和2年2月12日(水) 送付予定</u>
ウ 参加表明書・技術提案書の提出期限	<u>令和2年2月21日(金) 正午まで</u>
エ 選定委員会1次審査結果・2次審査(ヒアリング) 実施要領送付	<u>令和2年3月10日(火) 送付予定</u>
オ 選定委員会2次審査(ヒアリング)	<u>令和2年3月19日(木) 実施予定</u>
カ 設計者の選定等通知	<u>令和2年3月24日(火) 送付予定</u>
キ 評価内容等に関する質問書の提出期限	<u>令和2年3月27日(金) 正午まで</u>
ク 評価内容等に関する質問書に対する回答	<u>令和2年3月30日(月) 送付予定</u>

##### (4) 質問及び回答

- ・ 質問は提出期限までに**質問書(様式1)**を提出先に持参してください。なお、郵送、FAX及び電子メールによる提出(提出期限必着)も可能としますが、その際は、提出前に電話により提出先に確認してください。
- ・ 口頭による質問は受け付けられません。
- ・ 質問書には複数記載することも、質問書を複数枚提出することも支障ありません。
- ・ 質問に対する回答は、文書により質問書の提出者に回答の上、ホームページ上に掲載し、プロポーザル説明書の追加又は修正として取り扱います。

##### (5) 参加表明書・技術提案書の提出等

- ・ プロポーザル方式による設計者選定に参加しようとする者は、**参加表明書(様式2)**及び**技術提案書(様式3)**各**1部**を、提出期限までに提出先に持参又は郵送等(書留郵便等配達状況を確認できるものに限る。)により提出してください。FAX、電子メールでの提出は受け付けられません。
- ・ 技術提案書は、別紙「**技術提案書作成要領**」に基づき作成してください。

- ・ 提案項目は「5 提案内容について」のとおりです。
- ・ 提出された書類は返却しません。

(6) 審査結果の通知及び評価内容質問等

- ・ 1次審査の通過者にはヒアリング実施要領を、非通過者にはその旨を記載した通知を送付します。
- ・ 2次審査の結果はヒアリングを実施した者全員に文書により通知します。
- ・ 1次審査の非通過者及びヒアリング実施者は、評価内容等を知りたい場合、提出期限までに評価内容等に関する質問書（様式4）を提出先に持参してください。なお、郵送、FAX及び電子メールによる提出（提出期限必着）も可能としますが、その場合は、提出前に電話により提出先に確認してください。
- ・ 口頭による質問は受け付けられません。
- ・ 質問に対する回答は質問書の提出者に文書により回答します。

## 5 提案内容について

本プロポーザルにおいて、求める提案項目は以下のとおりです。

### ■求める提案項目

- ① 札幌市営交通の特性を考慮し、地下鉄を運行しながら工事を行うことのできる方法について
- ② シェルター特有のアーチ構造に対する、合理的な構造解析と補強計画について
- ③ その他独自提案について（当該業務を実施するに当たり、重要と考えられる新たな視点等）

## 6 審査及び設計者の選定について

審査は、札幌市交通局に設置される「交通局プロポーザル選定委員会」（以下「選定委員会」という。）において、1次審査と2次審査の2段階で行います。各審査及びヒアリングは非公開とします。

なお、選定結果及び1次審査通過者名は、2次審査終了後ホームページにて公表します。

(1) 選定委員会の構成（5名）

- 委員長： 吉江 一弘 （交通局高速電車部 技術担当部長）
- 委員： 岡崎 太一郎 （北海道大学大学院 教授）
- 委員： 新沼 俊司 （交通局高速電車部施設課 工事担当課長）
- 委員： 玉田 孝文 （交通局高速電車部 施設課長）
- 委員： 青葉 宏明 （交通局高速電車部車両課 検修担当課長）

(2) 1次審査

- ・ 技術提案書を所定の期日までに提出した者を対象に、提出された技術提案書を評価基準に基づいて審査し、1次審査通過者を選定します。
- ・ 1次審査通過者（2次審査対象者）は、3者程度とします。なお、技術提案書を所定の期日までに提出した者が1者だった場合は、提出された技術提案書の評価が基準点を超える場合、2次審査対象者として選定します。

### (3) 2次審査に伴うヒアリングの実施

- ・ 1次審査通過者を対象として、技術提案書をもとに、業務への意欲、姿勢等について選定委員会が評価を行うためのヒアリングを実施します。
- ・ 出席者は総括責任者1名と主任技術者1名の計2名以内に限定され、代理の出席は認められません。なお、総括責任者は必ず出席してください。
- ・ ヒアリングは1者約20分（説明10分、質疑10分）を予定し、順次個別に行います。なお、参加者数に応じて時間を変更する場合があります。
- ・ 出席できない場合又は実施時間に遅参した場合は、ヒアリングなしで審査することになります。
- ・ 提出された技術提案書を使用して説明するものとし、追加資料の配布及び具体的な設計図、模型、透視図等の持ち込みは禁止します。
- ・ 詳細は別途通知します。

### (4) 2次審査

- ・ 1次審査通過者を対象に、ヒアリング内容を評価基準に基づいて審査し、1次審査の結果も勘案して、1位と評価した委員数が最も多い者を設計者として選定します。ただし、1位と評価した委員数が同数であった場合は、各委員の評価点を合計し、得点の高い者を設計者として選定します。
- ・ 選定した設計者に次いで1位を獲得した数が多い者を次点として選定します。
- ・ 技術提案書を提出した者が1者だった場合は、提出された技術提案書及びヒアリング内容の評価が基準点を超える場合、設計者として選定します。

### (5) 評価基準

<技術提案書による評価（1次審査）>

ア 業務の実施体制（別紙「実施体制評価基準」）【20点】

イ 業務の実施方針【20点】

ウ 提案内容【40点】

<ヒアリングによる評価（2次審査）>

エ 業務への意欲、姿勢等【40点】

ア～エの合計120点を満点として採点します。

※ 文章と整合性のないイメージ図等の表現は減点の対象となる場合があります。

## 7 技術提案書の取扱い

- ・ 原則、提出後の技術提案書の訂正、追加及び再提出は認めませんが、事務局から追加資料を求めることがあります。
- ・ 著作権はそれぞれの設計事務所に帰属します。
- ・ 提出された技術提案書は非公開とします。
- ・ 設計者の選定を行う作業に必要な範囲において、複製を作成します。

## 8 業務委託について

- ・ 実施設計業務は令和2～3（2020～2021）年度に実施予定であり、予算及び事業計画の修正等により、業務の委託が不可能になった場合などには、実施しない場合があります。
- ・ 選定委員会で選定された設計者に対しては、原則として本業務を委託するものとします。
- ・ 設計者の選定から契約までの間に札幌市交通局競争入札参加停止等措置要領（平成14年5月31日交通事業管理者決裁）に基づく参加停止措置を受けた場合、又は会社更生法（昭和27年法律第172号）による更生手続開始又は民事再生法（平成11年法律第225号）による再生手続開始の申立てがなされた等、経営状態が著しく不健全であると認められる場合は契約を行わないことがあります。
- ・ 選定された設計者と本業務の契約が成立しない場合は、次点の者と契約の交渉を行うものとします。
- ・ 受託者は、技術提案書により提案された履行体制により当該業務を履行するものとします。
- ・ 発注者は、契約後の設計業務等において、技術提案書の提案内容に拘束されません。

## 9 その他

### (1) 言語・通貨

手続において使用する言語は日本語、通貨は日本円とします。

### (2) 失格要件となる場合

以下の条件のいずれかに該当する場合には、選定委員会において審査の上、失格となることがあります。

- ・ 技術提案書に虚偽の記載がある場合
- ・ 選定中に、技術提案書に記載された総括責任者が担当できないことが明らかになった場合
- ・ 選定後に、技術提案書に記載された総括責任者が極めて特別な場合（死亡、入院等）を除き担当できないことが明らかになった場合
- ・ 選定結果に影響を与えるような不誠実な行為を行った場合
- ・ 選定中に札幌市交通局競争入札参加停止等措置要領（平成14年5月31日交通事業管理者決裁）に基づく参加停止措置を受けた場合、又は会社更生法（昭和27年法律第172号）による更生手続開始又は民事再生法（平成11年法律第225号）による再生手続開始の申立てがなされた等、経営状態が著しく不健全であると認められる場合
- ・ その他、選定委員会において不適切と認められた場合

### (3) 受注資格の喪失

当該業務を受注した建設コンサルタント（協力を受ける他の建設コンサルタントを含む。）等が製造業及び建設業と資本・人事面等において関連があると認められる場合、当該関連を有する製造業及び建設業の企業は、当該業務に係る工事の入札に参加し又は本件工事を請け負うことはできません。

### (4) その他

- ・ 本プロポーザル方式による設計者選定に係る提出書類の作成及び提出に係る費用については、参加者の負担とします。

- ・ 提出書類に虚偽の記載をした場合は、失格するとともに、虚偽の記載をした者に対して当局が行う入札への参加停止を行うことがあります。
- ・ 発注者から受領した資料は、発注者の了解なく公表、使用することはできません。
- ・ 原則として、プロポーザルを理由とした職員等に対するヒアリング、敷地内や写真撮影が許されない場所での写真撮影及び通常の利用において立ち入ることが想定されない場所への立ち入り等は禁止します。

## 10 参考資料

以下の参考資料を、令和2年2月21日（金）まで「4 (1)担当部局・提出先」の窓口で配布します。

なお、当該参考資料の取扱いに際しては、守秘義務を厳守し、本プロポーザルの目的以外で使用するとは禁止します。

- (1) 事業概要説明
- (2) 既存図（配置図、平面図、断面図等）

## 実施体制評価基準

### 1 業務の実施体制

分類	評価項目		評価区分		配点	MAX
1 (1) 事務所の類似実績	事務所の類似業務実績	事務所の類似実績 「プロポーザル説明書3(1)カ」に記載の条件に該当する実績を記載し契約書及び施設の用途、階数並びに延べ面積を確認できる書類の写しを添付	実績1件につき (合計2件まで)		1.5	5
	過去の業務成績	事務所の類似実績(評定点) 過去3年間で本市から受注した業務を対象とし、(評定点の合計)÷(評定点の記載があった業務数)を評価	80点以上		2	
1 (2) 保険	保険の加入状況	賠償責任保険の加入状況 事務所の賠償責任保険の加入の有無が確認できる書類の写しを添付	加入あり		1	1
			加入なし		0	
1 (3) ア 総括責任者	保有資格	保有資格 「技術提案書作成要領3(3)」・の3番目に記載の条件を満たす資格を記載し証明できる書類の写しを添付	2個以上取得あり		1	1
			1個取得あり		0	
	手持ち業務	手持ち業務 令和2年4月以降も携わる1千万(設備:5百万)円以上(税抜)の設計業務及び監理業務数	3件未満		1	1
			3件以上		0	
CPD	CPD取得単位数 「技術提案書作成要領3(3)」・の5番目に記載の条件を満たす単位を取得し証明できる書類の写しを添付	取得あり		1	1	
		取得なし		0		
業務実績	業務実績 「技術提案書作成要領3(3)」・の6番目に記載の条件に該当する実績を記載し契約書及び施設の用途・階数・延べ面積を確認できる書類並びに携わった立場を証明できる書類の写し <sup>※</sup> 及び実施体制証明書(様式5)を添付	条件アに該当する実績1件につき	合計2件まで	2	4	
		条件イに該当する実績1件につき		1		
1 (3) イ 主任技術者	保有資格	保有資格 「技術提案書作成要領3(3)」・の3番目に記載の条件を満たす資格を記載し証明できる書類の写しを添付	2個以上取得あり		1	1
			1個取得あり		0	
	手持ち業務	手持ち業務 令和2年4月以降も携わる1千万(設備:5百万)円以上(税抜)の設計業務及び監理業務数	3件未満		1	1
			3件以上		0	
CPD	CPD取得単位数 「技術提案書作成要領3(3)」・の5番目に記載の条件を満たす単位を取得し証明できる書類の写しを添付	取得あり		1	1	
		取得なし		0		
業務実績	業務実績 「技術提案書作成要領3(3)」・の6番目に記載の条件に該当する実績を記載し契約書及び施設の用途・階数・延べ面積を確認できる書類並びに携わった立場を証明できる書類の写し <sup>※</sup> 及び実施体制証明書(様式5)を添付	条件アに該当する実績1件につき	合計2件まで	2	4	
		条件イに該当する実績1件につき		1		
※携わった立場を証明できる書類の写しを提出できない場合は、省略可。					合計	20

# 業 務 概 要

## 1 業務名

南北線シェルター耐震改修工事実施設計

## 2 背景等

南北線シェルターは、札幌市営地下鉄南北線の地上走行部分の積雪対策として、昭和 46（1971）年に建設された施設であり、建設後約 50 年が経過している。

耐震診断の結果、所定の耐震強度を満たしていないことから、耐震性を確保するため耐震補強が必要となっている。工事に関しては地下鉄を運行しながらの工事となるため、特に安全に配慮する必要がある。

本業務は、澄川駅～真駒内駅間の「南北線シェルター耐震改修工事」の実施設計業務を行う。

## 3 施設概要

所在地 : 澄川駅～真駒内駅間  
建設年 : 昭和 46（1971）年  
構造 : 鉄骨造  
用途 : 桁上雪覆い（土木工作物上に建設）  
延長 : 約 2.7km（総延長 4.3km）  
ユニット数 : 138 ユニット（総ユニット数 : 225）

## 4 想定事業費

約 165 億円

※ 実施設計業務に係る予定額 : 約 2,300 万円

## 5 業務内容等

### (1) 業務内容

南北線シェルターの耐震改修工事のための実施設計を行う。地下鉄を運行しながらの工事となることから、保守点検業務等への影響等を考慮した工事計画（安全対策、騒音振動対策、工事仮設計画、工事スケジュール等）を策定すること。また、耐震改修計画の評定を取得すること。

### (2) 業務の進め方

札幌市営交通の特殊性を考慮し、所管部所と調整を図り、安全に工事等を行うことが可能な計画となるよう業務を進めること。

<工事施工に当たっての前提条件>

- ・ 地下鉄の運行を通常通り行うことのできる状態に維持すること。
- ・ 夜間作業については、原則、地下鉄営業終了後の AM 1:00～5:00 とする。
- ・ 軌道内の保守・点検により夜間作業ができない場合がある。

(3) 履行期間

契約締結日から令和4年3月頃まで

(4) 想定事業スケジュール

平成27年度 耐震診断（実施済）

令和2～3年度 実施設計（本業務）

令和4年度～ 工事及び工事監理

※ 予算及び事業計画の修正等により業務の委託が不可能となった場合などには、実施しない場合がある。

(5) 留意事項

業務内容及び特記事項等については、設計業務委託仕様書によるものとする。